

【第 2 期 第 3 回 浅川流域連絡会】

議 事 録

平成 22 年 12 月 15 日

東京都 南多摩西部建設事務所

【第2期 第3回 浅川流域連絡会】議事録

開催日時：平成22年12月15日(水) 18時30分～20時05分

会 場：東京都 南多摩西部建設事務所 4階会議室

1 開 会

事務局

それでは、みなさんこんばんは。時間になりましたので、第2期第3回の浅川流域連絡会を開催させていただきます。本日は師走のお忙しい中、またお寒い中お越し頂きまして、誠にありがとうございます。さっそくですけど、また連絡事項、確認事項頂きます。本日の配布試料につきましては、今回は薄いんですけど、まずレジメ、スケジュール表A4ですね。それと他の流域連絡会における分科会の実施状況ということになっております。それともう1枚湯殿川の現場見学会についてですね。この4種類です。出席者を確認させていただきます。都民委員が14人のうち11人、団体委員が7人のうちの6人、行政委員ですが7分の6です。トータル全委員で29名のうち24名の方が参加して頂いております。毎回のことですけど、議事録を作成させていただきますので、冒頭から録音させていただきますので、予めご了解頂きたいと思います。なお終了時間につきましては、8時を予定しておりますので、ご協力の程、宜しくお願い致します。それではさっそく議事次第に移りますので、座長お願い致します。

2 議 事

座長

みなさんこんばんは。前回はフィールドワークということで、ゆっくりと議論できなかったんですけども、今回は特に事務局の方で用意して頂いた、とにかく短い時間の中で、盛りだくさんのことをやっていかなくちゃいけない流連なんですけども、なんとか部会をできればなというようなことで、そこで十分な時間を取ってというようなことをなんとか中身の濃い議論をするにはということで、事務局と少しある資料を用意しましたので、事務局の方から説明お願いできますかね？

事務局

事務局です。宜しくお願い致します。座って説明させていただきます。今お手元のこのような紙。とりあえず東京都でやってます流域連絡会の中で分科会があるということで調べてみました。1枚目はですね、概要的なことでございますけれども、3連絡会において、分科

会というものがございまして、それぞれ野川の分科会、石神井川の分科会、柳瀬川及び空堀川の分科会がございます。そのもののちょっと細かい簡単な説明はですね、実は次のページにあります。まず始めの方はですね、柳瀬川及び空堀川の分科会がございます。次の資料がちょっとめくってもらえれば、これは野川の分科会の資料でございます。ちょっと資料の順番が逆で大変申し訳ないですけども、まず柳瀬川、空堀分科会につきましてはですね、横にしたものがございます。水循環分科会というのとですね、河川環境分科会というのが2つございます。これは第4期でございまして、実はもうすでに第5期に入っておりますけども、一応第4期についてはですね、一応開催状況、それから活動。このようにですね、一応委員の方、この流域連絡会の委員の方はどちらかに入られているという風なことでございます。活動内容につきましては、例えば水循環分科会については、現地調査の水枯れですとか水量の確保の取り組みとか芝中調整池の将来のことを分科会として、研究かつ検討をされているようでございます。次に、河川環境分科会につきましては、現地調査を行なって現状の把握、それからこの場合については植樹についての意見交換をやってそれぞれ報告書等を作成しているようでございます。続きまして野川分科会について説明させていただきます。こちらもうすでに22年度で、第5期に入っております、その前の第4期のことについて簡単にメモ書きを一応添付してございます。まず分科会につきましては、水環境分科会、それから生きもの分科会、それからなっとく部会この3つ。あともう1つ、研究分科会というのも一応設定されています。これについては自由参加ということです。例えば第4期でなっとく部会4回、それから水環境が14回、生きものについては12回ということで、こちらほぼ全員の方がそれぞれの分科会に参加されているようでございます。あと内容についてはですね、ここに書いてございますような河川情報図の作成やフィールドワーク。それから水環境についてはですね、現況の把握だとか用水路の再生プロジェクトなど。それから生きものについては生き物の観察会ですとか皆さんご存知かと思いますが、野川ルールというようなものを作って、その普及及び改良というような活動をされている。一応簡単でございますが、あと石神井についてはちょっとまだ今資料収集中でございまして、ちょっと今回資料は間に合わずごまた今後仕上げて行きたいと思っております。基本的にだいたい2つか3つ程度の分科会の中で、委員の方がほぼ全員が参加されている。これは活動状況によっても違うでしょうけど、大体年に5回程度それぞれ分科会で活動されているというようなことでございます。たぶんこれらについてももしかするとホームページ載せる場合もあるかと思っておりますのでご覧ください。以上簡単でございますが、事務局から今日の資料についての説明を終わらせたいと思っております。

座長

この中で浅川でも運営している場所で見ているともう議論が騒ぐだけで終わってしまう。これは今、私危惧しています。ずっとこういうことを続けてはね、みなさんのせつかくのお時間を使って、勉強をしたい、あるいは提案したいという思いのある方はたくさんいら

っしやると思うので、なんとかそういうものをですね、全体ではやっぱりもう今回 5 回位したんですかね、全体を増やす訳にはいかないんで、適時分科会でもっと深い議論をしていければという中で、八王子は八王子の浅川は浅川独自の今みなさんが一番興味のあるいくつかの分科会を作っていければなということで、そういう会議の受け皿にしたい。ということで 2 期目になんとかそれが前期目でもしも 1 つでも立ち上がればありがたいなという風なことで、前々回からのずっと課題にしてるんですけども、それについてこういう形でとかご意見頂ければ、ほんとにありがたいですけども、いかがでしょうか？

団体委員

ちょっとよろしいですか。このなっとく部会、水環境分科会、生きもの分科会、研究部会ってというのはどういう基準で 4 つに分けられているのか？何をどうするのか？我々には少しわかりにくい。

事務局

ちょっと私どもも調べつくしていないんですけど、ただやはりあくまでもそれぞれの全体の中ですね、委員の方がそれぞれ勉強したいこと検討したいことを課題にしたようなんでね。すでに見て頂くと平成 18 年からもうやっているようですね、全体でそれぞれ何をやるべきかということを論議されたんではないかなと思うんですけど、ちょっと細かい点についてはかなりもう回数も経ってますんで、どうしてもということになると、もう一度調べないといけないかなという所なんですけど。現在、今の段階ではだいたいどういう分科会があるかということだけ、もしかしたらごんごでちょっと調べないといけないかもしれません。

都民委員

浅川流域連絡会はですね、浅川という本流に対して支流を主にやってますよね。同じようなそういう形態を持っている連絡会というのはあるのですか？例えば石神井川流域連絡会というのがあったとしますね。それは石神井川の本流じゃなくて他の所をやっているのか。それとも本流ですよ。浅川の場合ちょっとタイプが違いますよね。

事務局

ちょっと別で、ちょっと特異な事例だと思うんですよ。他の今ご紹介した 3 つの流連の分科会につきましては、1 つの特定の河川についてですよ。2 つっていうのもありますけど。浅川流域だとすると、15 の河川がということでこのままこれを事例にしてということではないかと。あくまでも参考にしたき台としてですね、ご紹介させて頂きたいと思っております。

ます。

座長

副座長さんが昨年までいらっしゃったそうなので、ちょっと説明をさせていただきます。

副座長

昨年 1 年野川の連絡会の方でいろいろ活動やってきたんですけど、同時に石神井川の方もちょっと管轄だったものですから、そちらの方にも出席しております。先ほど野川の分科会のどういうものだったという質問があったんですが、なっとく部会というのは、野川の維持流量がどの位がいいのかなと納得できる流量はどの位なのかという所から活動が始まりまして、現在流量調査を直営でやっております。行政の方でも時間かけてやっているんですが、行政の調査と市民がやる調査をつき合わせたり、野川の望ましい流量っていうのはどれくらいなのかという所を研究しています。行政側の方のリーダーシップがかなり強い部会です。それから水環境分科会の方は、野川の水枯れ対策、なっとく部会と同じようなことなのですが、こちらの方は主に野川の維持流量をどうやったら増やすことができるのかということで、いろんなプロジェクトをしたり、あるいは行政が働きかけたりして、非常にアグレッシブな部会です。直接市の方に直談判したり、自ら壊滅しかかった農業用水をどうやって復活させるか。足で歩き回って調査をしたりという部会です。生きもの分科会というのは、これは読んで字のごとく生きものを多様性のある生きものを調査する。主に野川公園、自然豊かな公園がありますけど、そこで実際に池を掘ったり、田んぼを作ったり、米を取ったり、みんなで収穫して米の試食会をやったりですね、子供達を集めて生き物の勉強会。リーダーが非常に熱心な方で世話焼きとともに自らの生活を犠牲にしながら。研究部会というのはこれは 1 回開催ということで大学の先生、法政大学の先生、地下水の研究をしている。昔黒目川とか落合川で地下水の研究をされてた先生なんですけど。この方が野川の地下水がどうなっているのかと昔の土木研究所と一緒に研究した成果がある。こちらの方はあまり回数はありません。ただ名前だけ残ってますし、今後また復活するかもしれません。石神井川の方は、分科会 3 つですかね。野川に倣って。昨年度初めて実施させて頂いて、まだ活動は 2 年目位なんですけど。非常に広域な河川で野川に負けずに 3 つ事務所位をまたいでいるっていうのがあって、今後分科会の活動がどうなっていくのかな。柳瀬川、空堀川にも昔いたのですが、今はどのような活動をしているかわかりませんが、非常に自然豊かな河川でありまして、調整地等もあります。

団体委員

ちょっと話の途中ですけど、今の説明では全然わかりません。我々。どういう風にやっているかっていうのが。もう少しわかりやすく。

副座長

具体的には委員の方々の中で熱心な方が世話役という形で2、3名で分科会を立ち上げてさまざまな活動をしていると。

団体委員

勝手にやってるということですね。

副座長)

勝手にと言いますか。

団体委員

もう少しわかりやすく、きちっと区分けしてあげて、その経過はどうなんだ。結果はどうなんだと、いろんな分け方があると思います。

副座長

公開してますんで、そこに行かれても傍聴できると思いますよ。

座長

それで、それも事務局側というかこちら側で用意しないといけない話ですか？部会の名前を作ってこれ入りますかと。私は今の段階ではそうしたくないと思っているんです。みなさんがこういう部会を立ち上げたらどうでしょうかとその指止まる方はいますかとそういう形ができません？

団体委員

それはみなさんで討議してね。

座長

そういうことで前々回から皆さんが興味がある所、どうしてもこの時間ではやっぱり議論できないです。8時で終わりでは。報告等いろいろあるんでね。それをなんとかみなさんの思いをね、どっかにやっぱりまとめたいたいという。それでももちろん全体の会は今まで通り、今年1つ1回増やしましたが、それはやって行きたい。ぜひともやって行きたい。そういう中でどうでしょうかという私の皆さんに対する問いかけなんですけども。いかがでしょうか。

都民委員

よろしいですか。

座長

はい。都民委員さん。

都民委員

はい。あのですね、この分科会を作りまして、その調査をしながらある程度の成果が出ますね。その見返りって言う訳じゃなくて、その結果はどういう風に反映するのですか？

座長

私と事務局、ただの雑談的な話ですけど、当然それはこの会でその各部会の報告を頂いたやつとかそれから全体の中でそれなりの中身がせっかくやってきたのだから、もっと広く企画をして市民に対してこの会が主催としてやってみようとかそういうことは当然あげる。

都民委員

その工事について、河川工事についてもいろいろな意見がありますよね。ですから便宜さを図るとか、そういう風なものについて結果が出た場合には、その工事にも反映されるんですか？

座長

反映というかそれは今まで通り何て言うんでしょうか。ここで皆さんとで何ていうんでしょうか。今年の工事はこういう予定なんてことでやりますよね。それをもっと事前につて言うと変ですけど、分科会でもっと詰めていろんな話をしておけるといった場合にできるんじゃないか。それは全体の中でこないだ 2 回ほど分科会のこの会でやってきまして、じゃあそちらの方の中での詰めた辺りの話と矛盾とかなんかどうぞ発言お願いします。あるいは意見をお願いします。そういう形は当然な訳。だからここに出てくる時に少し議論をなさっているグループがあるというような形でね。それでまたこっちからそっちの方でまた戻って詰めてみる。そういうことが当然ありえる。そっちはそっちでこっちは総会的なものだけしかやりませんということではございません。

団体委員

今東京都からご説明のあった河川はほとんど工事も、基本的な工事は終わっている所、都市河川ですよ。浅川の状況は、谷地川にしても、湯殿川にしてもガンガン工事が延びていっている地域ですね。それからあと浅川本流の南浅川、北浅川を始めとする 13 本の源流、東京都さん管理が中心になって今委員会がある訳ですけど、あまりにも範囲が広すぎる訳ですよ。これを見ますとやっぱりこの護岸が終わって河川そのものをみんなでどうして行こう、どう生き物、生物が住めるようにしていくとか水の量とか野川なんかは枯れ

ちやうから、日立の方から源流を流してきて、少しでも水を増やそうっていうそういう議論だと思うんですけど、浅川についてはやっぱりとりあえず工事です。工事の検証なり、議論をするところぐらいですね、あまりにもいろんな河川があるので、毎年の工事のお話はして頂いているんですけど、十分に議論はしていないと思うんですよ。ですからそこら辺を議論して、私は工事部会があったらいいなという風に思ってるんですけど。それをして頂いて、あとは他の方が他の希望があれば結構ですけど。ちょっと考えても範囲が広すぎてですね、こういう事例のようにはいかないと思いますので、私はとりあえず工事をもう少し議論してという部会を作って頂きたいなという意見です。

座長

はい。団体委員さん。

団体委員

今のあれで工事という意見があったんですけど、結局、今まで議題があってその中でお話を聞く、一方的に聞くような形の流域連絡会だったと思うんですけど、一番最初に皆さんが問題意識を持って参加された所にまず原点に戻って、自分がこの所に興味があったから入りたいという所から、この会に入ったと思うので、皆さんの意見を抽出して、その中でどれをいくつか候補を挙げてそれで入りたい所はこれはやってみようとかいうことをまず皆さんから1つずつこう意見を聞かないことにはちょっとできないんじゃないかと思います。

座長

そういう中で団体委員さんは？

団体委員

ちょっと疲れちゃってるので、どうでしょうね。工事もちょうともう水掛しちゃったという感じもするので、あれもこれもしたくない感じ。皆さんの意見を聞いてからにしたいかなみたいな。

座長

はい。団体委員さん。

団体委員

今回八王子市で浅川をきれいにしようという事で、田中副市長が中心になり浅川プロジェクトを作ったんですね。今日、市も出席してますから、その八王子市としてはどうこれからやっていくんだということをちょっと教えてほしいと思ひまして。皆さんに説明をし

て頂きたい。

座長

今の議論に繋がりますか？八王子市が詳しくその何ていうんでしょうか。

行政委員

八王子市で浅川プロジェクトというのがここで立ち上がる予定です。私の所で詳しく把握してないので、申し訳ないんですけども、ちょっとこの場で発言できる形ではないのですが。

座長

どちらの主幹の。水循環か何かの。

行政委員

そうですね。水循環まで伺っております。

座長

浅川プロジェクトという。

行政委員

はい。

座長

もう何か冊子か何かできていらっしゃるのですか？

行政委員

今の所、部内で少し固まっているという程度なので。

団体委員

いや。全部の部に跨ってプロジェクトができているはずです。頂点が市長で。

座長

何ですか？全部の部に。

行政委員

そうですね。いくつかの部に跨って活動しております。

座長

はい。という中で皆さんこういう部会があれば私は参加しやすい、ぜひとも作って頂きたいというようなご意見をね、頂いて、集約して、じゃあ今の工事ですか、河川改修の浅川流域、日野、八王子では、まだその部分はとても大事だからその部会を作ろうよというようなことで、そうすれば事前にね、事前にじゃあ今年の計画と今までやった検証、そういうところで時間が取れる委員の方で集まって頂いて検討して頂くとなんてことが事務局の方でもどうでしょうかと提案できるというのかな。そういうことでお話しさせて頂いてるんです。

都民委員

私は希望としては、各河川、全部と言う訳にはいかないんですけど、特定の河川に絞ってでもいいのですが、多自然型川作りって言うんですか、自然をどう活かすかとそういった川作りそれを少し絞って特定の河川に絞って分科会となると思うんですけど。それを 1 つ部会に立ち上げて頂ければ、非常に面白いんじゃないかと思います。

団体委員

私も初めてでよくわからないんですけども、ただやはりこないだの見学しましたよね。そういうのを見て、こういう川でありたいという。つまり生き物が生きやすい人間もまたしても生きやすいそういう川として、でも川ですから洪水が一番大事で。でもその中でなんていうか親水公園っていう公園にしちゃわないで、自然を動物や生き物達が生きられるようなそういう川作りをしていきたいなと思っているので、それは例えば分科会で言うなら、どういう分科会になるかわからないですけど、川をもうちょっと丁寧に見るそういうフィールドワークをしながら、特に私が一番感じているのは大栗川のような水辺にも行けないような、そういうコンクリートの川ってとってもなんかできないのかなっていう風に今からでもと思うんですね。それから川口川や山田川ですか。ああいう所の上流の方がなんであんなにこう荒れているんだろうかとかもっと大事にできないのかなっていう風に思うわけですよ。だからこのたくさんある川の中で全部なんてとてもできやしないから、先ほどの方がおしゃったように何かこれなら私達にもできる、取り組みやすいんじゃないかって思う。例えば醍醐川辺りの自然を残したいということだったら生きものの分科会を作って、生き物を調べればいいし、あるいは分科会という名前を作らなくてもなんかそういうちょっとみんなで調べながらいい川作りができるようにやっていけないかなっていう風に何もわからないので思いました。

座長

都民委員さんのおっしゃった範疇に入ってくるような感じだったんですけど。

都民委員

私日野に住んでいるのですけれど、日野で都の管理しているのは程久保川だけなんですよね。程久保川も全部工事が終わってしましてね、やってっても早かっただろうと思うんですけど、要するに洪水の時にいっきに水を流すということでまっすぐにして、川底を深くしてということで、旧河床というのですか、河川ですかね、旧河川部分かなり用地としてはかなり残っているんですけど、それを今全然程久保川とドッキングして何かをやるっていうのは、川底の高さがかなりもう新しい河川が深くなっちゃっててね、なんともできないということなんで、日野の唯一の都が管理している河川なんで、水部会に属してるんで、あの辺を源流から水の量を増やすとかですね、いろんなことをやりたいと思ってはいるんですけど、なかなか難しいと思って。そういう意味で十いくつかある浅川流域の中の川をね、今までのお話 2 人の方がおっしゃったように特定のどれか河川を選んでね、モデル的に源流も雨水、地下水の海洋からね、森林からね、その辺からしっかりやっていい河川を作るというモデルの河川を 1 つ選んで、それをみなさんで 10 年でも掛けて構築して行く為に活動するというのっていうのは僕はいいと思うんですがね。と思いますがこんな所で。意見として。

座長

モデルの河川を選んで、集中的に部会でやることも 1 つあると。他にございますか。

都民委員

私たちが今ここにいる意味とはですね、やはりこれからこの浅川流域をどうしていこうかということのために意見を言う、そういう部会だという風に捉えているんですよ。そうするとさっき団体委員さんがおっしゃったように、工事があるという時にその工事に対してどういう川にしてほしいのかという我々の意見がその工事の中に反映されていくのが一番現実的な効果のあることじゃないかと。そう捉えますと、工事がどのぐらいのボリュームでどの位の頻度で行くかにもよるんですが、その工事の計画に沿う形で我々がその工事箇所の水環境あるいは生き物環境、そう言ったようなものが本当の意味で、我々側からもこう調べてご提案できると。それが反映されて工事が少しでもその中に工事の中にそういう意見が取り入れられていくようであれば、これは理想だと思うんですけどね。ただそういうことをやった時にどれくらいの付加がかかるのか。その辺がちょっとよく見えないんでね、これ以上はちょっと言えないんですけど。そういう観点から行くのが一番現実にしたあり方のような気がするんですけど。

団体委員

よろしいですか。

座長

はい。どうぞ。

団体委員

ぼくも本来はそうあるべきであると思うのですが、ここで見ていると非常にたくさんあるということと回数が少ないことで工事をね、ある程度説明しといて、こんなつもりでやりますよということに対してちょっと言うだけのつというような感じになってますよね。その時にここに出てきとった人たちがいろんな思いを勝手にガタガタガタ言って、もう議論にもならずすぐ時間が終わっちゃうっていうのでね、これはなんとかせないかんから分科会なんていうものが出てきたと思うんですけど。それから考えますと、ある意味では流域連絡会っていうのがある程度、その都の方からこういう工事をやっていくよという説明があって、それに対してどうなんだということを言ってくれとお互いに調整しながらできるだけみんなが思うような川にして行きましょうというのが元にあるんですけど、膨大な工事量に対してね、より難しいこともいっぱいあると。そういう中でまた自分の思いだけしか言わん人があまりにも多すぎちゃって、結局はなんつもの会がないようになったと。そういうのが現実であってね、分科会なんていうのはそう時に何か出てきた時にそれはもう少し詰めてお互いに話をしていこうというような形にして初めて分科会を作っていくと。というぐらいのことが妥当じゃないかと。あくまでもやっぱり流域連絡会というのは、都の方でこういう工事をこうやって行こうとすると。これに対してどうですかと。いってそれに対してある程度思いが言っていけると。というのが主流であってね、それがうまくいかんようだったら、そのうまくいかんかったことにとってそれだったらこれは別に分科会でこれだけのことをお互いに詰めて話しましょうと。というような形で言うようなことが現実的じゃないかと思うんですけどね。何か1つテーマ決めてやろうって言ったって、何のためにそれやるのみたいになっちゃいますからね。だからそういう意味では今、聞いた分科会がある所っていうのは団体委員さんが言ってたように1本しかなくって、かつ都の方もこんなことがやっぱり問題だけどっていうのがあってね、そのことをぶつけたら市民も一緒になって分科会ができたような感じ。お聞きしているとね。したんですよ。だからそうするとこの浅川の場合は、そういうのがものすごくいっぱいあって、都の方も今これがこういうことが中心になって考えたいけど、どうかというようなこともなかなか出してこれをないし、我々の方もそこをどう絞ってそうのっていうのにもならないのでね。結局は大変だけど、とにかくまずはやることを理解して下さいよということとそれに対して何かないというのがベースにあって、そこで意見がガタガタしてとんでもないことを言うのがあったらね、それについてはそれだったら別にきちんと意見交換会なり研究会なり学習会でもやって、もう一辺そのとこだけをやって行きましょうというような分科会というのが現実的ではないかと思うんですけどね。

座長

基本は工事に関わる改修に関わるのが基本になって、それをまず全体がやるのがまず最初にはあるのだけれども。

団体委員

はい。その中で例えの話でその所で、多自然型ということでこうやったりということに対してちょっと待ってこういうことだというようなことになった時には、それだったらそのことに関して多自然と言うことはどういうことだということで、2、3 回集まって詰めて話して、納得する線まで出るかどうかは別としてね、それをやっていくというような形でやっていかないとなんか分科会持ってどうの言ったって、結局はなかなか収集していかないし、非常に限られた時間では非常に難しいと。それからものすごくいっぱいいろいろなことを言う人がいっぱいいる訳ですよ。それでは結局は何を作っても一緒だから、やっぱそういうとこでそうやるためにいうような分科会の方が僕は現実的だと思いますし、もともとこの会の目的がそういう形でいかんのじゃないかっていう気がするんですけどね。

座長

他にございますか。

都民委員

今のご意見でね、もう工事が決まっちゃって内容が決まっていたら、我々説明を受けている訳ですよ。団体委員さんがおっしゃるようなことだったらやっぱり、この辺の改修をやりたいんだけど、どうでしょう。この改修の仕方についてとういうことで話ししないと始まらないとやっぱり意味ないですよ。だからそういう形はこの連絡会ではちょっと無理なんじゃないんですか。この連絡会って言うのは、もう 22 年度にやる工事の説明があるだけですよ。ただそういう意味ではこの前谷地川を見せて頂いた時に程久保川に比べてかなり都の方も行政の方もかなりその環境だとか水路だとかいろんなことを考えて配慮してやっているなと感じはしましたけれどもね。だからそれをもっといい方向に持っていくような何か得策があればね、いいのかなと思いますけどね。

都民委員

今、非常にいい意見で賛成なのですけども、もう 1 つ別の側面としてね、いわゆる行政側が計画を立てる時に、この部分はその都民委員達はどう思うんだろうとあるいは団体のサークルでやっている方達はそこをどう見るんだろうと。そういう疑問は出てこないのかなと。今までまったくないのですよね。ここはどう思いますかと。我々はこう考えてこうやりましたけどというそういう提案があって、そういう中で 1 つまあここそれじゃあ検討

してみようというかなこともあってもいいのかなと思うんですけどね。行政はどういう気持ちであるいは考えがあるんだと思うですよ。その多自然型に皆さんが擁護しておられるというのはわかるから何とかそうしたいとか。これよりはこっちの方がいいじゃないかとかそういう思いでいろいろ計画は作っておられるんでしょうけども、その行政側の思いが我々に伝わってこないんですよ。なんか最初からこうですけど、どうですか。こういう感じでしか受け取れないのですね。もうちょっと行政側からもこの所どうしたらいいのかしらというような、提案があってもいいのかなと。そうするとそこでそれについてはあそこに本当にそういう生き物がいるのかとかいないのかとそのようなアプローチもして行けるのかなと。

団体委員

よろしいですかね。今やっているのがまさにそうであってね、ただ確かにかなり固まったやつしかないからどういうんだということはあるんですけど、そうするとその固まっていないやつをどうやって説明するかということになっちゃいますよね。だからある程度こんな風にしてこうやってやろうというようなのは、かなり計画が出来たときにしか出てこないんで、その時にそれだったら我々でどこに入れればいいのかと言うのが確かにあるんですよ。そこで気が付いたことはある程度こうだと言ってかつそのだけでもこうしちゃったら、次の時には活かしてくれとかね、そう言う形でしか活かせないんじゃないか。現実的には。計画のところでそれをやるっていったらかなり専門的な形でずっとやってきて、それでいろんな意見もある中で具体化してきますよね。その時にこれでどうかということしかやっぱり言えないじゃないかという気がするんですよ。というのは確かにいいのはずっとベルト段階にこれもあるこれもあるこれもあると言ってどんと出して、さあそうどうかと言っというてそれでまたみんなで意見聞いた所でこうっていうのが確かに理想ですけど。行政そんなこととてもじゃないが、金の問題、それから時間の問題、だからできんわけですよ。だからその中でも出来る限りは市民ですか、だとか住民の意見を聞いて行こうとするとね、やっぱりこういう形でしかない。だけどその中でそれだったら我々としてどうやって生きていくかという問題が確かにあるんですけど、それに対してやっぱり僕が思うのはある程度行政もいろんなことを考えた所でやらししているので、それに対してやっぱりどうしてもおかしいと思って、この所がどうかというようなね、言い方で出していくという形で出していくと言う形で少しでも、議論になるような言い方していくというようなことを我々もできるだけ意図してやっていかないと、思いだけをぼんぼん言ったってね、やっぱりなかなか噛み合って行かないような気がするんですけどね。だから我々の方がそういう要求はあるんだけど、その要求をどういう出し方をするかということもやっぱり考えていかないとこういう会はずまわ回っていかないのではないかなという気はするんですけどね。

団体委員

こういう議論をこのメンバーで果たしていいのかどうか。先日たまたま大学と市長とふれあいの場という会場に行きまして、各大学が自分はこのことをしたいんだ。いろんなことを大学生として気持ちとしてね、こういうことがやりたい、ああいうことがやりたいと頭の中でいろんなことをやらなければいけない。この大学も一緒に参加させながら、この場に若い人達の意見としてね、各々皆さん地元の河川を持っている訳ですよ。それが1つと。それから必ずその地域には昔からそこで魚釣りの道具なんかを販売している川の専門家とかいろんな方がいらっしゃる訳ですよ。そういう方も参加させながら、それと我々から見ると行政っていうのはもう少し広く勉強してもらいたいなと。我々は技術的な絶対に負けないような世界からどっかから叩かれてもいいように我々は行動したい訳ですよ。なんとなく素人くさい、川に関して何でも聞いてくれよと、これが理想なんだという位勉強した人がそういう担当に。市としてはね。我々としてはそういう方が担当してもらいたいなと。ですからこの場ももうちょっといろんな方が参加して、みなさんの意見を聞いて。今、最近では江戸時代の八王子とか江戸時代の環境問題はどうなっているんだとか、いろんなこう昔を振り返りながらやっていますよね。そこまでいなくても我々の育った昭和だってすごくいい時代。川ってこういう親しみがあつたんだよとかね。だからいろんな角度から議論しながら、どういう川がいいんだとかすばらしいんだということをみんなで作りに上げていくことが大事じゃないかなっていうのは思います。

座長

それを部会としてね、1つ作るって言うのもあるっていう。そういう窓口広げたと形でのいう風なご意見として解釈していいのかしら。他にございますか？

都民委員

私、分科会多自然型うんぬん言った訳ですけど、何も多自然型川だけを指すとあるいはそれについて我々の考えを出すというものじゃなくて、やっぱりそれをやりながらこの工事、ここの河川の工事はこれでいいのだろうかとか工事関係にも立ち入って、検討、研究、経験していくというようなつもりで言った訳ですけど、先ほど全体会議ではなかなか深く経験できないという風なお話もあった訳ですけど、やっぱり分科会によって我々勉強して、調査してということによってもう少し意識あるいは知識が進化していくという風なことで分科会の意義は非常にあると思うんです。ここで1つ行政側から我々がどういう風に持ってたなら聞いてもらえるのか。あるいは行政側がどういう風な我々の考え方、やって行き方を期待しているのか。行政側の考えをちょっとこの会もそもそも始めたわけですから、どういう風な結論に持っていこうと始めたのか。もう一度遡って始めに帰ってですね、ちょっと教えて頂けたらと思います。

座長

深い意見ですけども、答えを。

行政委員

じゃあちょっと。議論の答えになるか。今までの一連の議論を踏まえて紹介させていただきます。私、河川部の方でいろいろな複数の流連に参加させて頂いている者です。まず 1 点目が先ほど市民の方のご意見も聞くというニーズが行政にあるんじゃないかという話があったかと思いますが、そこら辺についてはこれはちょっと自分の解釈かもしれないし、場所々によって違うかもしれないですけど、基本的に河川改修をする時一番気になるのは、川のすぐ傍に住んでいる地先の方の意見。その方が納得して頂けないと河川改修できません。それは用地の買収を含めてですね。なので、そういった意味での市民の皆様の意見は非常に最優先というようなところ対応しているというのが今の現状だだと思います。それに加えて流連を作った主旨に若干絡むと思うのですが、とはいえやっぱり川というのは地先の方だけのものではない。という中で、やはり幅広く聞かないといけないねということとでこういう流連を作らせて頂いたという背景があります。ここで問題なのは得てして地先の方の意見と大きな流域で見た意見が異なってしまうということですね。例えば草を刈るという話でも、得てして地先の方は、完全に刈ってくれということが基本的には実は多いです。ですがやっぱり自然に配慮するとなるとやはりそこは刈らないでくれという意見の方がむしろ逆に流域レベルだと多い。その矛盾について行政は対応しないといけない。先ほど行政として理想を 1 本持ってこれで間違いないというようなスタンスが必要だというような意見がございましたが、現実的にはなかなか行政はすごい迷っているというのが状況です。とはいえやはり意見を聞いたうえで行政も最後はやっぱり河川管理者として判断しないといけない。その意見を幅広く聞かせて頂くという意味で、こういった場をやはり行政としてももっと話を聞かなければいけない。そういった中で例えば最初の方の話にありましたが、ご意見を聞く時期という話ですね。河川整備のご意見を聞く時期。これはですね、行政がどうしてぎりぎりになっちゃうかと言いますと、話は聞いてるんですね。いろんな意味で。落としどころもあるがそれなりに完成度が高くないと、どうしても議論発散しちゃうリスクを抱えてしまう。これは行政とみなさんとの若干信頼関係みたいな話もあるのです。やはりその辺はですね、地先の方を直接ここにお呼びしてとなると、実は議論がかなり現場で白熱しちゃう時とかもあります。そういうこともあるのでなかなか厳しいと思います。やっぱり行政が真ん中に入った方が話がいいと。ちょっとそれは南西建とも調整しますけれども、基本的にはやっぱりその年の整備の落としどころ案、行政の案を一応その年にやるということがですね、今までの経験上はですね、一番議論がまとまるそういうイメージで、それはまた今後多少前後、むしろどちらかという前、できるだけ前の方で当然反映できる業務も多いかと思うので。そこは議論の余地はあるかと思いますが、そういう背景があるということだけこの場でご説明させて頂きました。ちょっと

答えになっているかわかりませんが。そう言った事で。

都民委員

よろしいですか。

座長

はい。都民委員さん。

都民委員

あのですね、浅川本流以外の支川、支流ですよね。これは各グループで団体でいろいろと工夫しながら、清掃しながら、そういうことをやりながら、やっている訳ですね。うちの東南部でも先月 28 日かな。南西建の協力を得まして、湯殿川の上流の目白大の下流の方の一端を清掃したんですよ。そういう風な清掃をずっとやっている訳ですよ。ですからその地域の河川についてはやっぱり住民にも声を掛けながら一緒にやっっていこうという意識がある訳ですよ。それに対して今度は各学校、小学校、環境学習ってありますよね。その学校の所在地の川、なかなか水生生物を観察する場所まで行くのが随分遠いのかな。30 分とか結構かかるんですよ。ですから、そういう風な子供達だけじゃなくて、大人も一緒ですよ。人間そのものが河川を活用できるような方法というのは市内の中にも町の中にも河川がありますから、そういう風な所も活用すればいいと思うんですが。今度は南口に新しい川があるんですね。あそこに 2、3 分の所に山田川というのがあるんですよ。こないだ見学しましたね。あの上流まで行きましたのですが、その辺りの用水路とかみんな深い用水路とがあるんですけども。ああいう所も昔はああいう風なので、それで過ごしてきたのですが、やっぱりああいう所を活用できると駅から近いし、いいという。あの辺でいろいろと水辺を楽しめると。それから高尾山の所にちょうど案内川ですか。案内川ですね。あそこはちょうど高尾山駅、あそこには親しみやすい河川になっていますよね。水辺があつて。北の駅にもちょうど湯殿川がありますよね。そういう所を八王子は川の町ですから、そういう所を活用できるような市民の憩いの場に出来るような方法もこれから必要だと僕は思います。

座長

潤いというですかね。

都民委員

浅川だけじゃなくて。浅川も結構毎年洪水だとか行きますが、やっぱりそういう周りの支川の方も考えた方がよろしいかと思います。

座長

まだどうぞご意見を言って頂いて。あれしますんで。

都民委員

私の先日の見学をちょっと急用で行けなくて失礼しました。そのあと個人で谷地川を見て歩いたんですけど、たまたま地元の防犯パトロールの方々と出くわしまして、土曜日でかなり大勢でパトロールされていた。たまたま雑談になって、谷地川について大変困っているという風な声が出たものですから、どういうことですかと言ったら、作りっぱなしだと。行政の方は作りっぱなしだと。そのあとのフォローがないと。じゃあ住民の皆さんはこの川をきれいにするためにごみ掃除とかそういうことはなさってないんですかと言ったら、やっているけどとても手が回らないと。現にもう私が見ている前で自転車を放り投げる人がいるんですよね。非常に汚いと。それだけじゃなくて、ずっと見たら本当谷地川というのはいろいろ見たけど、やっぱり一番汚いと思うんです。だからやっぱり住民との話し合いってというのがどれほど進んでいるのか、どれほど徹底してやっているのか。本当にこういう要望を出すと住民がそれに答えてそれなりの川を守る運動とかきれいにする運動とかそういう風にして工夫しているのかどうか。そういった所までご指導なさってるのかという風な疑問をとにかく持った訳ですが。やっぱり住民と我々との間の意見が違うということが多いというのは確かだと思うんです。だけど我々はどちらかと言ったら理想論ですよ。そこを調整するのは当然行政であって、そういった相互が予想される相互については、ある程度は住民の方に納得して頂いて、じゃあ皆さんこういう会を作ってください。川をきれいにする会を作ってくださいあるいは町会でここからここまでは見てくださいと。いう風なことをぜひやってほしいんですよね。ここまではこの感じ。境があって境に標識が立ってますよね。標識がね。

団体委員

今部会をどういう部会をね、今議論が同じ人が何回も発言しているんですけど。最後に1人ずつどういう部会をほしいかという議論をした方がいいんじゃないんですか。要望とかそういうことじゃないと思うんで。

都民委員

それで私は部会をそういった問題を深く検討してあるので、部会でやった方がいいという考え方です。

座長

じゃあ団体委員さん。手を挙げたんでね。そういう観点でお願いします。

団体委員

工事部会というのは1ついいと思うんですね。やっぱり地先の人に話をした時に同時にここにも話すっていうと実は買収の面積の問題もあるので。恐らく市民には言えない事を地先の人と相談始まるんで。そういう市民も含めて、地先ここを工事をやろうと言ってからそれから恐らくこっちの意見はガタガタするから真ん中に立って頂いて地先の人はどうだとか言って、その代わり流域連絡会はその話聞いたらですね、一般市民に公開できない話なんですね。行政もそうですけど。それも心得て、僕は工事部会というのはいいと思うんです。ただ私は、部会としてはですね、この前から小中学校の環境学習のフィールドを全部の学校の近くに作りたい。近くというのは授業として成り立つ総合学習として成り立つような所にできないかなと。だから内容的にはたぶん多自然にするのが本当はいいと思うし、それは現在もう全然ない所、大栗川ってそうですよね。降りる所がない所もあるし、一部湯殿川も部分的にまったく降りられない所がある。非常に苦労している。出来る所もちろんあると。その辺で全部の学校にしたいというのを持っている。実際部会では1つ2つできればいいのかなという気がします。

座長

多自然に関する。

団体委員

多自然なんですが、とりあえず全部多自然だととてもとても経済的にも。

座長

わかります。わかります。要するに多自然の部会っていうものを。

団体委員

よりも環境学習のフィールド作りということですね。

座長

それを部会としたら多自然型の所のどこかの部会でそういう所を議論していこうみたいなことでも。

団体委員

はい。

座長

それでは、今都民委員さんにもお伺いしますけども、今まで部会がこうということでは

う発言がなかった方を中心に、何とか回りこちらから順番に言ってほしいんですけど。いいですか？都民委員さんからどうぞ宜しくお願いします。一生懸命メモしますので。

都民委員

メモするようなことは言えないんですけど、やっぱり浅川流域ってたくさんの川がありすぎて、深入りするのが生きもの分科会とかこういうのをやっていると難しいと思うんですよね。だからやっぱり言われたように工事、私もあまり川の中の工事って好きじゃないので、できればやってほしくない分なので、工事の部会というんですか、そのもうちょっと勉強したいのでどういう風な考え方で、川をああい風風に工事をなさるのかわからないことがあるので、私はちょっとその部会が言われたようにあった方が。それとちょっと早めにここをこういう風にしたいんですけどという話があって、それをちょっとみんなで話し合って。みなさん程久保川ってやっぱり私達関わってきた時に最後の所はやっぱり私たちが入ってこういう風にしたいんですけどと言われた時に少しこれをこういう風にお願ひしますとかああいった所に少し浸透性のものにしてもらったり、こっちはセメントにしないで土にしてくださいとかお願いできたので、できれば工事をする前に小さい河川だとかそういうことが出来るのかもしれませんが、浅川だと大きいからできないと言われればそれまでなんですけど、もうちょっと早めにこうしたいと言われた時に私達こういう風にしてほしいんですけどって言える様な私はそれが一番、工事に関してなんですけど。お願い致します。

都民委員

私はこの流域連絡会に入る時から、工事する前に要するに市民の意見を取り上げるような方向に持って行ってもらいたいというのが1つあったんですよね。今お話したのも工事の説明を受けてから、軽微な変更くらいしか出来ないということはその通りだと思うんです。というのは河川改修するにしても何年か先までも来年はこの河川、その次はこの河川ともう割り振りしてますよね。実際に。そうすると前後のこともあるからそう突飛なものではできなくなっちゃうと。ということですね、3年くらいまでのやつはもうしょうがないと。その後進めてもらうとして。それより先のものを、その次の順番はこうだよと。この河川については、十いくつもある支川の中でのこういう順番でやりますよというのを、先に正確じゃなくてもそういうものを出してもらって、そこをまずですね、現状の調査、評価といいますか。3年ばかり前ですか、都の方で河川の評価というのをやっている所もありますけど。日野も作ったらどうだいという話があったんですけど、けしてまだそこまで行ける気がしないんですけども。それによってですね、現状を把握して残したいとこ、これはもう見るからに危ないから手を加えなきゃダメだろうとか。あるいはその周りに歴史的な物もあるから、それは絶対残そうよとかですね。そういうのも調査して設計にかかる前にみんなの意見を取り上げてもらうようなことをやってもらいたいです。そのためには

このここに書いてある河川環境分科会っていう柳瀬川、空堀川というのがあるんですけども、発展というか、こういう形でやればいいんじゃないかなとかフリートークがほとんどになってしまうので、なかなか参加できる人が少なくなっちゃうのかなという危惧はあると思います。

座長

はい。都民委員さんは先ほどのモデルのでよろしいですか。都民委員さん。

都民委員

河川管理というのはやっぱりそもそもは人の命が第一で、それから財産保全があって、その次に自然との調和ということになる。やっぱり前者が優先される。ここにきて自然との調和ということで。私はやっぱりいかに自然を団体委員さんがおっしゃったような考え方ですね、そう言った形で考えていって、それが河川環境に結びつくような形が筋じゃなかりょうかと思うんですね。従ってそうは言っても浅川流域連絡会を管理する所はいろいろ多いですね。やはりある程度モデルケースというかターゲットを絞って、そういう自然環境保全という観点に分科会を作って頂けたら。水生生物ということだけではなくて、日野の鳥はカワセミですし、八王子はオオルリなんですね。オオルリは河川にはあまり飛来してこないんですけど、今日もいろいろな鳥が浅川流域に来ていましてですね、カシラダカなんかも見ましたし、そういった面で飛来生物あるいは流域にいるいろんな狸も出ますし、鼬もいますし、そういった生物も含めて幅広く自然環境を保全するような河川環境を目指すというような形でやって行きたいなと思います。

座長

はい。次。ごめんなさい。都民委員さん。

都民委員

どのような分科会を開いたらいいかと私まだ新参者であんまりわからないんですけど。ちょっと質問させて頂きたいことがあるのですが、去年ですか、八王子の浅川の田んぼの辺りを歩いていたら、用水に小さい魚が泳いでるんですよね。ここまできると魚がいるのかと見たんですけども、日野市では取水口から用水がちゃんと入ってきて、きれいな水が流れているんですけど、魚はまずいないです。昔に比べると随分川はきれいになっているかと思うんですけども、まだ雨が降って1週間位の流れている水は非常にきれいなんだけど、その後はだいぶ臭いがしてきますよね。流域の下水道というのはどれくらい管理されているのか。生活用水というのはどうなっているのか。そこら辺ちょっとご存知の方お聞かせ頂きたいと思います。

座長

八王子の日野市に比べるとちょっと解りませんが、基本的な下水管はもう入ってるんですよ。あとそれを接続するかどうかという期限はあるんですけども、基本的にはもうほとんどと言っていいくらい整備、下水道、あるいは奥に入ると集落的な下水道がね、そういうことではかなりもう整備がされております。では次の都民委員さん。

都民委員

そうですね、分科会と言うような話ですから浅川流域連絡会と言うのは、14 番目にできたということですのでよろしいんですか。そうですね。いろいろなご意見ありましたが、確かに今まで 1 本河川みたいな所の流域連絡会と言うのが今回東京都の浅川流域連絡会という各自で始動した。それでスタートしたんでしょうけど。そもそもその行政の目的と言いますかね、考え方と言いますかね、浅川流域に関して特に。と言うのは私があんまり気にしなかったんですけど、国交省の直轄の部分が大半いわゆる浅川と言われている所の大半を占めてましてね。作った時にそこもどうするんだということを今考えれば。そういうこともあると思うんです。ですから分科会云々という前にそもそも設立の趣旨というか本来の考え方はどこまで我々から求めてくんだと言う所をあんまり理屈言ってもしょうがないんですけど、みなさん気になりますよね。私なんか日野市の本流そばに住んでまして、まったく本流のことしか考えていなくて、そうなる親水と言いますか、そういう考えが強かったんですけど、どうもいろいろやろうとしても全部直轄の国交省の職員さんの方の対応になるのかなと。そんなこともありまして、そんなこと言ってもしょうがないんですけど、分科会というのはそれだけいろいろな河川がいっぱいあるんで、川 1 本ごとにその分科会を作るとか順番にね。例えば日野で言えば程久保川で集まっているいろいろなことを 1 つの案としてはあるのかなと。

行政委員

たぶん切り口と言う話だと思うんですけど、例えば野川の例なんですけど、野川も流域は比較的狭いのですが、やはり 20 キロくらいあるので、上中下流で全然問題が違うんですね。下流はちなみに今、改修がやっております。それが一番大きな問題です。

都民委員

これは全部東京都管理ですか。

行政委員

そうです。直轄の問題ありますね。下流は川作りが問題。中流は水がないことが問題。上流はまた川作りが問題。地域別に切ろうか、テーマ別に切ろうかというのが常に議題に挙がってきます。野川は基本的にテーマ別に切った方がいいだろうということを判断しま

した。これは市民の皆様が判断しました。行政からこうではなくて、市民の皆様が判断。その主旨はやっぱり世田谷市の方と国分寺市の方が一緒の場で議論すると。そういう場があって川全体を見るという視点の方がより現場で詳細な議論をするよりも重要であると。それぞれ切り口によってデメリット、メリットがあるかと思うんですけど。野川の場合はそういう判断を皆様がされました。一方で言われるとおり、浅川の場合、野川よりさらに大きい。かつ直轄の管理が分かれている。そういった特性もあると思うので、そういう地域別の切り口がいいか、テーマ別の切り口がいいかというのはやはりこの場でですね、議論した上で独自の上で判断する必要があるのかな。

都民委員

他の河川をサンプルに出来ない。あんまり。いろいろ知恵を出していかないとなかなかこの同じような分科会ということで。

座長

それはわかってますよ。先行事例として。まずこういうことなんだよということでご意見を聞いて、で都民委員さんはどうかと言うことを聞いている訳ですよ。直轄河川に興味があるということですよ。

都民委員

あとは例えば河川 1 本を分科会にと言う切り口もあるのじゃないかなという、こういうことです。支流をそれぞれという風な分科会が 1 つの意見です。

座長

はい。続きまして。

都民委員

やっぱり切り口として工事単位に考える。今回工事が予定されている地域に例えばどういう自然があって、それが工事によってどういう風な影響を与えるかとそういう所から興味のある所から攻めていくとそういうのが一番入りやすいと思うんです。工事部会と言ってもそれはまったく生きものと別だと言うのではなくて、その工事に関連して、生き物的なアプローチがあり、防災とかいろいろなあれがある訳ですよ。それで要望って言うのをまとめながら、全体の工事のあるべき姿って言うのを作って行くって言うんですかね。それじゃないとなかなか議論ばかりあれして肝心の工事がどんどん差迫ってきてですね、予算がどうか、そのまま工事なって、物が出来上がってというパターンが繰り返されていくような感じになってしまうんですね。ですから分科会については私は多自然のインターバルですね、昔の自然があるようなそういう出したいと思った。それともう 1 つはそういう分科会も去ることながら、当面浅川をどうするかと言う議論がある訳

でね、例えば先ほど目の前で自転車をぶん投げるとかいうお話ありましたけども、そういう市民の意識のレベルの低さをどうやるかというのが当然ある訳ですよ。そういうのは、例えば学校教育であるとか、自治会とかで運動をもっと盛り上げていくと。我々散歩していてですね、河川敷の方に瓶が転がってて。わざわざ取りに行って、ポケットと言うかマイバッグに持って、持ち帰ってとそういうのはなかなかできないわけですよ。それは道の途中にそういう収集所みたいなのがあれば、そこにポンと放り投げて蓋をして戻ってくると。いろんなやり方で市民がきれいにそういう意識を持っている人がきれいにできるような仕組みを行政の方で用意して頂ければ。身近な所でクリーン運動とかに参加できる。そんな難しいことを言わなくてもより浅川はきれいになっていくんじゃないかとそんな気がしてます。

座長

はい。それではお3人はよろしいですか。じゃあ都民委員さんお願いします。

都民委員

いろいろご意見聞きましたのですが、まずテーマから入ったということですよ。いろんなことがあるということと河川工事がどうするか。それに伴っては、工程はどういう風にやるのか。期間は年間でやるのか毎月やるのか、回数開催、場所は調査する場所によって異なり。打ち合わせ方法についてはこういう場所を借りて行なう。そういう方法も考えて頂かなければ、いろんなそのテーマによって違うのではないかと。それに伴って、それについては事務局あたりの専門的なご意見とか調査するにはどういう調査方法の内容がいいとか。わからないことが多いと思いますけど、どう動かして頂くとかですね。まずテーマが決まった時にどのテーマがいいかということも決めさせて頂けないか。もう1つ行政の方からおっしゃっていましたが工事の関係。これについてはなかなか行政の方の情報公開、契約とかいろんな工程ございますから、それはまずその前後あたりのものをボランティアみたいな意見とか議論をするべきですよ。ある工事の前の調査はどういう調査なのか。生き物なのか。水質なのか。それは前もって聞かないといけない。終わったあとはどういう形をしているのか。その後に行政さんがまたそれを参考にされるでしょう。私はそういう何点か問題をちょっとお聞きしたかったということでございます。

座長

分科会を作るうえでの留意事項みたいなものことですよ。それではお話があつて団体委員さん。分科会を作って欲しい点だけでお願いします。

団体委員

浅川の場合、先ほどかなり特異な川だということもあるんですけど。まず日野川、八王

子2市しかかかってない川ですけども、圧倒的に八王子さんの方が流域の92%、日野は8%という割合で、動いております。そこの方も他の河川とバランスがあまりよくないということもありますけれども、分科会については、例えば浅川流域、それから各河川の流域、目の前で見える人たちはそれぞれ意見かあて何かなさるでしょうけども、15本1川がありますから、小さいのを含めて。それが全部分科会別々に持つとなると恐ろしい話になってくると思うので、やっぱり先ほどどなたかがおっしゃっていましたが、生物についてそれから河川改修について、それから今後のあり方について。いろいろな分け方があると思うので、そこら辺で各河川の考えている、抱えている問題。それをお互いに話し合って、じゃあ浅川はこういう川だし、自分の所はこういう位置にあるというようなことを確認しあった上でいろいろ進めると言うのが一番わかりやすいかなと思ってはいるんですけど。

都民委員

あの全部やるという意味じゃないですから。三年間やるとかね。そういう意味です。

座長

話し合って。団体委員さん。

団体委員

こないだちょっと八王子市のサイクルロードの話を言ったんですけど。そしたら今は最終的に車と自転車や人の交通をするための橋の下を通すための道作りはしているけれども、サイクルロードを計画するのは特にやっていないという話だったんですね。結局八王子が河川に対して出来るのはやっぱりそういう都だとか国なんかの工事の時に一緒にこう要望していく、そういう話が出たときに要望していけるような工事しか持っていけないという話だったので、先ほど団体委員さんがおっしゃっていた今浅川プロジェクトというのを立ち上げるということで、すごい今大事な時なんじゃないかなと私は今思っているんです。前に浅川流域条例というのを作りましょうっていうような話が一時期あって、ちょっとその勉強会もしたことがあるんですけども、なかなかその八王子市の方がそれに対してちょっと後ろ向きというかあんまり前向きな状態ではなかったのですが、ここで浅川プロジェクトを八王子市が作るとしたら、流域条例じゃなくてもこちらのこういうこんな川作り。例えばさっきのサイクルロードは皆さんとしては違うかもしれないけれど、サイクリングロードがずっと繋がって高尾山に行ったり、山頂まで行けるような川作り。そしてみんなに親しまれるような形に持っていければ、少しでも多くの人が川に関心を持ってくれる可能性があるんじゃないかなとかっていうのがあるので、分科会かどうかわかりませんが、とりあえず今浅川プロジェクトがどう状態で動くのか、とりあえず私たちがそれに対してその流域の考え方を入れてくださいみたいな要望を出せるんじゃないかと思うので、それについてちょっとやってほしいなと思いました。

座長

以上お聞きしました。メモを取りました。今日これにしましょうというのはもちろんできません。議事録等睨んで、出来れば最終、次回にいろんな応対についてどこまでそういうことが言えてどうしようっていうことをまとめて行きたいと思っております。それでよろしいでしょうか。では次の議題に行きます。次回の議題についてお願いします。

事務局

それでは議事のその他になりますけれども、湯殿川現場見学会についてということで、お手元の湯殿川整備工事（その35）現場見学会についてというのを見て頂きたいと思います。実は前回区民委員の方からですね、蛍の生息するこの河川についてどのように再生していくのかということで、その工事現場を見学したいというご要望がございました。そこで今回この現場見学会を設定した次第でございます。これは流域連絡会として実施するものではありませんので、任意参加という形で致しますが、ご都合の合う方はぜひ参加して頂きたいと思います。日程についてなんですけども、来年の2月8日の火曜日。時間は13時15分から15時半ということで、2時間強位ですね。南西建の事務所に集まって頂きまして、前回フィールドワークと同じように南側の駐車場の所にマイクロバスを置いておきますので、そちらの方に乗って頂いてですね、こちらの方から現場の方へと。1時間ほど現場見学をしまして、またこちらに戻ってきて、解散という形で考えております。2番目の集合なんですけども、今申しましたとおり、この事務所の南側の駐車場。時間は13時15分です。見学箇所としては八王子市館町地内の湯殿川整備工事（その35）の施工現場ということですね、ちょっと1枚めくって頂いて、横になりますけども、そちらがですね、湯殿川整備工事（その35）ということで、場所がですね、京王八王子の高尾駅から1つ新宿側へ1駅狭間ですね。狭間の駅から南におよそ1キロ弱行った位の地点です。これについて本年度この秋から来年の3月いっぱいという工程の中でこの100mの湯殿川の中を整備していこうというのがございます。湯殿川についてはですね、標準的な川の断面って言うのは10mの川幅で考えてみると、旧河川と新たな、当初から都市計画川として入っておりました新可動の方も合体しましてですね、川の広い幅の用地の確保できましたので、真ん中が標準断面図とありますけどもですね、ゆったりとした24m幅員ですね、右岸側には自然石を利用した護岸を作ったり、左岸側については緩傾斜護岸ということで、緩やかなですね、傾斜の護岸を作りまして、芝を用意して、自然に親しめる形かつ自然の生物も住んでいけるようなですねそういった環境に配慮した川の整備をしていこうというものでございます。当日の2月8日位ですと、この工事の中でですね、標準断面である真ん中のものが点線ですね、左側の方が下がっている所が現状の川の断面になるんですが、その点線から右側に向かって上がっていますが、上がってる部分をですね、その実線にあるように掘削をして、それで右側の自然石護岸を構築していく位の段階での状況だと思います。時間は1時間程

でございますので、この工事現場を見て頂くのとあとその下流側西明神橋、明神橋というのがある。これは去年整備した所でございますので、その整備した箇所も一緒に見て頂けたらという風に考えております。では戻りましてですね、実際参加される方、募集方法なんですけども、参加は先ほど申しましたように任意なのですが、募集人員は20名ということで、こういった場合についての申し込み方に限りまして、ご参加頂けない場合はこちらから連絡させていただきます。申し込んで特に断りの連絡がなかったら、皆さんそのまま参加頂けるということでございます。募集の締め切りについては来年の1月24日。募集の方法なんですけども、現場見学会の参加を希望される方は、この用紙の裏面がですね、Faxの送付状となっております。こちらの下部分のですね、連絡事項の欄の所にお名前、住所、電話番号を書いて頂いて、そのままこれをFaxでも送って頂くというやり方かもしくは元に戻って頂いてですね、Eメールアドレスで担当の所に、私申し遅れましたけども、工事課河川工事係斎竹でございます。こちらの所に私のEメールの所に送って頂ければ、こういう形になります。あと留意事項につきましてですね、ご連絡頂いた個人情報につきましては、当然ですけど今回の見学会以外には使用致しません。あと参加される場合ですね、工事現場ですので、当日は汚れてもよい服装と及び滑りにくい運動靴等でご参加頂ければということで。革靴とかハイヒール等は現場では大変な事になりますので、避けて頂ければと思います。ヘルメットにつきましてはですね、当方で準備致しますので、服装をそういった感じで用意して頂いてですね、当日はご参加して頂ければと思います。現場見学会については以上でございます。

座長

わざわざ用意して頂きましてありがとうございます。この日程で出席できる方は、ご覧の通り連絡してください。それでは事務局さん。

事務局

次回委員会の議題についてですけど、1枚スケジュールを添付したんですけど、来年の2月の末か3月の頭位で議題につきましては、これで本年度につきましては通常は4回だったんですけど、1回増やしまして5回となっております。フィールドワークにつきまして、これの活動報告ですね。前期分ということで。今までと同じようなかっこうで意見の概要をある種大きな区分でまとめさせて頂いて。そこで発表させていただきます。議題について今日のご意見いろいろお伺い致しまして、いろいろあったんですけど、分科会については皆さんやっへ行こうというような方向性でしたので、ある種議会のアウトラインを設定させて頂ければと思います。その他何か議題について要望があればお聞きして頂きたいと思うんですけど。

団体委員

よろしいですか。分科会に関しましては、その地域の方を入れた方がいいと思うんですよ。

座長

ご意見として。はい。

団体委員

先ほどもまだ決まっていないという浅川プロジェクトについて八王子市に説明をして頂きたいと思います。

座長

お願いできますか。じゃあ次回の議題の 1 つとして、報告と言う形でよろしいですか。団体委員さん。浅川プロジェクトですね。他によろしいですか。ありがとうございました。じゃあ開催日ですか。

事務局

大変申し訳ないのですが、予約がございまして次回の開催 2 月 28 日が月曜日、3 月 1 日が火曜日、時間については本日と同じように 6 時半からなのですが、どちらか選んで頂ければ。

座長

じゃあまた多数決っていうと変ですけど、欠席する方が少ない方で決めたいと思います。まず 28 日出席できない方、手を挙げてください。お 1 人。3 月 1 日出席できない方。お 1 人。じゃあお互いにじゃんけんしてください。ということは 2 月 28 日今日と同じ 6 時半からこちらの会議室で行ないますので、宜しくお願いします。以上です。あと事務局さん何かありますか。

事務局

いいえ。

3 閉 会

座長

よろしいですか。どうもありがとうございました。